

## 2019年度自己点検・自己評価及び学校関係者評価の結果について

本校は、このたび教育水準の向上と適正な学校運営に取り組み、良質な看護教育の展開に努め、その評価を高めていくために自己点検・自己評価を行い、評価結果について取りまとめました。

さらに、質の高い看護教育の実施と幅広い知識と確かな技術を習得できる学校づくりをめざし、自己点検・自己評価に加えて学校関係者評価委員会による評価を実施しました。

自己点検・自己評価及び学校関係者評価委員会の評価結果については、見直しや改善等に努め引き続き適正で良好な学校運営を行う一助として活用する所存です。

2019年度の評価結果について次のとおり報告します。

2021年3月22日

おだわら看護専門学校

### 1 自己点検・自己評価

#### (1) 評価方法等

2019年度(2019年4月～2020年3月)の教育活動について、本校教職員が構成メンバーである自己点検・自己評価委員会により評価を行った。

#### (2) 自己点検・自己評価委員会により評価

○2020年5月～12月に実施

○自己点検・自己評価委員会委員5名により評価

○評価項目

厚生労働省が設置した「看護師養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」からの検討結果を元に公表されたカテゴリーを大項目7、中項目18、評価項目81項目に設定

○評価基準

評価項目81項目について、次の4つの基準点で評価

適切⇒4 ほぼ適切⇒3 やや不適切⇒2 不適切⇒1

#### (3) 自己点検・自己評価委員会による評価結果のまとめ

○開催日等 ・2020年12月22日

・おだわら看護専門学校で開催

○出席者 ・副校長 ・教務主任 ・専任教員 ・事務長 ・事務主査

## 2 学校関係者評価

### (1) 評価方法等

学校関係者評価委員会を開催し、自己点検・自己評価結果に基づいて評価を行った。

### (2) 学校関係者評価委員会

#### ・開催日等

2021年1月29日 午後6時30分～8時

#### ・おだわら看護専門学校及びWeb各拠点で開催

#### ・出席者

委員(4名)

委員	所属	備考
委員長	病院院長	養成所教育に関わる臨地実習施設関係者
委員	病院看護部長	養成所教育に関わる臨地実習施設関係者
委員	短期大学特任准教授	教育に関し知見を有する者、本校卒業生
委員	団体会長	その他学校長が必要と認めるもの

事務局(学校教職員7名)

学校長 ・ 副校長 ・ 教務主任 ・ 専任教員 ・ 事務長 ・ 事務主査 ・ 事務主任

## 3 評価結果別紙のとおり

以上

## 2019年度自己点検・自己評価及び学校関係者評価結果

■自己点検・自己評価結果の評価点について

(1) 自己点検・自己評価委員が4段階で評価した点数の合計を評価者数で除した平均値

(2) 4段階評価【評価基準点 適切⇒4 ほぼ適切⇒3 やや不適切⇒2 不適切⇒1】

おだわら看護専門学校

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果	学校関係者評価委員会の評価
I 教育理念・目標	3.2	1 教育理念・目標	3.2	1) 教育理念・教育目的・卒業時に期待する学生像(育成人材像)を明文化している	4.0	本校の教育理念・目標について、「学生便覧」「ホームページ」「シラバス」に明示している。オープンキャンパスなどで、高校生や受験希望者にも伝えていいる。	教育理念・目標は開校以来変わらないが、その伝統を維持して、それに沿った看護教育行い、西湘地域の看護師の育成に大きく貢献をしている。在学生に対して本校の看護教育に係るアンケートが実施されて、学生の意見も反映できる素地が生まれ受け止めができるようになった。教育理念・教育目的・育成人材像などを学生及び保護者に浸透させる取り組みがされている。令和4年のカリキュラム改正に向けての検討も視野にあるので、この結果を期待したい。
				2) 学校における看護教育の特色は明確である	3.2	本校の看護教育の特色である「看護実践力」の向上のため、カリキュラムや教育指導と環境設備の整備を行っている。成果を計るアンケートを2019年度末に行い結果をホームページで公表した。	
				3) 教職員は、教育理念・教育目的・育成人材像について認識し、努力している	3.0	教育理念・教育目的・育成人材像を認識し、教育活動を実践している。より具現化できるように努力したい。	
				4) 教育理念・教育目的・育成人材像・特色などは学生に浸透している	2.6	学生には、新入生オリエンテーション、保護者には入学時保護者説明会にて説明している。年度末学生に社会人基礎力の自己評価を行わせているので、加えて、教育理念・教育目的・育成人材像を評価することで、学生個々に意識付けしている。	
				5) 教育理念・教育目的は定期的に見直されている	3.0	カリキュラム改正ごとに検討しているが、変更はしていない。令和4年のカリキュラム改正に向けて、教育理念・目的・目標・卒業時に期待する学生像の整合性を検討する準備を行っている。	
II 学校運営	3.4	2 組織体制	3.4	6) 教育目的に沿った運営方針のもとに目標を明確化し運営している	3.6	年度初めに「教育方針」を教員に提示し、各担任や各看護学担当、係の教育計画に反映している。	組織体制は、学校運営に関して適切に対処する体制であり、合理的で良好に行われておりますので現状を維持して頂きたい。
				7) 学校運営会議・教職員会議などを定期的に開催している	4.0	看護学校運営会議は年間5回開催し、予算、決算、卒業認定、単位認定のほか学校運営の重要事項などを協議し運営の基本的事項を決定している。教職員会議は年間5～6回開催し、学校行事、学校運営等を協議、連絡調整を行っている。	
				8) 教務および事務の組織を整備し、業務分掌は明確になっている	3.4	教務の業務分担任を毎年見直し定めるとともに、事務の業務分担任についても必要な都度見直しを行い、業務分掌の明確化に努め円滑な業務の推進に努めている。年度の終わりに次年度の教員業務分担任を決定し各教員が準備できるようにしている。	
				9) 業務の効率化を行っている	3.0	教員及び事務職員の業務分担任を明確に定め、業務の適正な運営と効率化に努めている。教務事務の効率化のために学籍、成績管理システムを導入し業務の効率的運営に務めている。	
				10) 就業規則等の諸規程は適切に整備されている	3.2	就業規則・学則等の諸規程は整備されており、必要な都度見直しを行い、必要な改定を行い適切に整備している。	
				11) 法令等を遵守し、適正な運営をしている	4.0	学則をはじめ諸規程の整備に加え安全管理マニュアルを定め、事件事故への対応を明確にして学校安全の徹底と管理に努め法令等を遵守し、より一層の適正な運営管理につとめている。	

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果	学校関係者評価委員会の評価
II 学校運営	3.4	3 自己点検・自己評価体制	3.0	12) 個人情報保護法は遵守されている	4.0	職員及び学生の個人情報に関して、小田原医師会立看護学校個人情報取扱規則を定め、個人情報保護管理者である副校長、事務長を中心に適切に管理している。	「自己点検自己評価」及び「学校関係者評価」への取り組みも2年度めとなり、2018年度の評価に対する取り組みを始めたことにより、自己点検自己評価の成果を生かした改善が図られるようになったので、この状況を維持されたい。
				13) 学校の情報公開体制が整備されている(自己評価結果の公開)	3.0	学校の情報公開体制については、2019年度から学校評価も含めた自己評価についての規程を整備して、取り組みを行い2018年度の事業実施結果に基づき自己評価を行った。	
				14) 教職員に対して自己点検・自己評価の実施及び問題点の改善に努めている	2.6	教職員の代表として、副校長をはじめとする5名で自己点検自己評価委員会を組織して、自己点検・自己評価に取り組み、その実施結果に基づき問題点等の改善に努めている。	
				15) 外部関係者からの評価を取りいれている	3.4	2018年度の自己点検自己評価の結果が出たところで、看護学校運営委員会に報告し、その結果を踏まて、別に選任された外部の関係者による評価委員会に諮って学校評価を実施し、その結果はホームページで公開している。	
				16) 学校運営に学生の意見が反映されるように努めている	3.0	学生の面談などの際に学校運営に係る意見要望が出された場合には、教員が日頃から、教務主任、副校長、事務長など学校管理に係る役職者に伝え、学校として状況を把握し対処すべき事項には適宜対処している。2019年度の学校運営について3学期に学生アンケートを実施して取りまとめ結果を教職員にフィードバックしている。	
		4 財政基盤	3.5	17) 事業報告を適時行い、会計監査が行われている	3.8	毎年看護学校運営委員会及び設置者に事業報告会計報告を行うとともに、設置者である小田原医師会の監事による監査を受け、理事会の議決ののちに定期総会で承認を受けて適切に対応している。	財政基盤は安定している。入学定員が80名になり授業料収入も増加しているが、学生数の増により、経費も増大している。学生の入学定員の確保に努め授業料収入の安定的確保を引き続き図って頂きたい。また、県及び市の補助金について、コロナ禍で経済が停滞しており、行政の財政状況も厳しくなると想定され、状況によっては、補助金の安定確保に影響が出る可能性のあるので、この点について注意が必要である。
				18) 中長期的に学校の財務基盤は安定している	3.6	学生定員を80名に増員したことに伴い、授業料等の収入が、増額となった。小田原市補助金及びそのほかの補助金等も安定的に確保されており財政基盤は安定している。	
				19) 財務状況の情報を公開する体制整備はできている	3.2	設置者である医師会の財務状況については、貸借対照表をホームページで公開しているほか、そのほかの財務状況についても本校で公表し、閲覧ができる。	
		5 施設・設備(環境整備)	3.8	20) 施設・設備は、教育上必要な対応ができるよう整備している	4.0	校舎設備は、新築により2014年4月から一新して最新になっているので、教育上の必要な対応は十分できるようになっている。備品及び機械器具標本模型は台帳により管理されている。法令上点検が定められている設備については、定期点検を実施している。	施設設備については、新築間もない施設であり、設備点検等は適正に行われている。今後、10年15年と年を経たなかで、修繕等の対応が必要となるのでその対応について準備を進めていただきたい。
				21) 図書室は適切に整備されている	3.6	非常勤の司書を配置し、必要図書を配備し図書目録作成、蔵書点検、新規図書の購入等、適切に図書の整備、管理を行っている。 蔵書数 8,752冊(2019年度末現在)	

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果	学校関係者評価委員会の評価
II 学校運営	3.4	6 安全・ 防災管理	3.3	22) 消防計画、学校安全計画等は適切に整備されている(防災管理規定の整備・地震・火災発生時の対応マニュアルなどの整備)	3.4	消防計画は、2014年の新築移転ともに改正作成し、小田原市消防本部に届け出を行っている。安全管理マニュアル、災害時(地震)行動マニュアルを整備し、地震・火災発生など、緊急時の対応を定めている。	消防防災学校安全計画等の対応はほぼ適切である。不審者の侵入対策について、学生の出入りに伴い発生する不具合は、実体を十分検証したうえで対応方策を定めていただきたい。
				23) 火災などの予防及び防災訓練など、防災教育を実施している	3.6	地震、火災など様々な災害を想定して毎年9月に全学を対象とした防災訓練を実施するなど、防災教育の徹底に務めている。	
				24) 防犯(不法侵入など)に対する整備は行っている	3.0	校舎の玄関は、電気錠で管理し、エレベーターは通常は停止しない設定となっており、構造的に不審者の侵入ができないようになっている。玄関の自動扉は学生の出入りの際に学生以外の者も出入りが可能であり不審者の侵入の可能性もあるのでそれを防ぐために窓口の事務室でセキュリティの解除等十分注意を払っている。	
III 教育活動	3.4	7 学修成果	3.3	25) 卒業時の到達状況を分析している	3.0	年度末に、「看護技術経験録一覧表」の卒業時の到達度を集計して評価している。厚生労働省の卒業時の到達度のレベルにはどの項目も到達している。また、「社会人基礎力」が育まれるように、1年次から自己の課題に向き合い成長できるように支援している。再履修生に退学率が高い。	学修成果では、卒業時の到達度を評価し、1年次から成長できるような支援しているが、今回の看護師国家試験で3名の不合格があり95.5%の合格率であった。そこに到達できずに退学する者がいるが、その低減に向けての取組が功を奏して前年に比べ半減している。学業不振やメンタルあるいはミスマッチなど様々な原因で退学になるが、再履修担当教員の配置やスクールカウンセラーの配置による学修支援や面接指導が、退学者の減少に寄与したものと評価できる。。
				26) 資格取得率(国家試験)・進学状況の向上に向けた取り組みを図っている	4.0	109回看護師国家試験は、66名中3名不合格で、資格取得率は95.5%であった。助産師学校への進学は2名であり不合格者はいなかった。進学希望の学生には、早期から支援を行い、入試方略法や学習支援を行い、入試の第1、第2希望まで相談に乗り、合格できるまで支援している。障害をもつ学生には、不利益を講じない学習環境を整え支援を行った。	
				27) 中途退学の理由・実情を適切に把握している	3.6	退学の理由は学業不振と進路のミスマッチの複合型が多い。再履修生に退学率が高く、学業が不振な上に、学習への関心を維持するのが困難であると考えられる。再履修担当の教員がかかわり、学習支援や定期面接を行い、普段から声をよくかけている関係性から退学の意味や理由は把握できていると判断する。また、11月からは、スクールカウンセラーを配置し、学生が悩みを相談できる環境を整えた。	
				28) 退学率の低減に向けた取り組みを図っている	3.0	退学者を減らして退学率の低減を図るため、早期に定期面接を行い、学生の状況把握と相談に応じている。退学は、学業不振が一番多い理由であるため、1年次には病理学や生化学などの学生が苦手意識をもつ学習の方法を支援している。入学してから進路に対するミスマッチを抱くことを防ぐために、動機付けがまた、入学試験で本当に看護師になりたい意思があるのか、動機が深いかの判断は難しい面があるが、面接の際にできる限り意思表示を引き出して判定をしている。再履修生に関しては、担当の教員が計画的に自己学習できるように支援し、孤独感を抱かないように絶えず声を掛けるようにしている。	

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果	学校関係者評価委員会の評価
Ⅲ 教育活動	3.4	7 学修成果	3.3	29) 学生の単位取得に向けた支援を実施している	3.2	入学前に役立つ情報として、「入試ガイドブック」を作成した。また、看護の学習につまづかないでスムーズに入っていけるように、入学前課題を充実させ、東進ハイスクールと連携し、自己テスト、DVDによる講座を導入した。入学後は、学習方法獲得の手立てとして、「基礎ゼミ」の科目で、早期から学習への取り組みに助言するなど、学生の状況把握に努めている。学生が苦手な病態系の科目は講義以外に練習問題を解くなど、終講試験前に取り組み、単位取得できるように努めている。また、成績低迷している学生の原因を把握できるように、模試の周辺学習などの助言も行っている。目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされている	単位の取得に向けた対応として、入学前教育を充実して学修方法を習得をさせることにより、学習能力の向上によって単位習得力を高めるなど適切な対応がされている。臨地実習の評価については、実技が主体であり、評価者となる教員も多数になるため統一された公平性を保つ難しさはあるが、教員間の意思疎通と判定会議で議論を十分行くとともに、引き続き公平性を保つよう努めて頂きたい。
				30) 成績評価・単位認定の基準は明確になっている	3.0	修了認定のための評価基準と方法を公表しており、評価について公平性・妥当性が保たれている。成績評価については、シラバスに評価方法を記載し、初講時に説明をしている。ただし、臨地実習における評価は、講義と違い担当している教員が評価をするため、会議にて各教員が状況を報告し、公平性を保つよう評価を行っているが、どのようにすると公平性が保たれるのかといったことが課題でもある。	
	8 カリキュラム・授業方法	3.5	31) カリキュラムは教育理念・目的・目標が反映され、効果的に構成されている	4.0	検討を重ね、効果的に構成されている。	カリキュラムは、指定規則に則って作成され適正であり、見直しも適宜おこなわれているので問題はないと思われる。授業の評価が一部で行われているが全体では行われていないので、今後は、評価を行って、新カリキュラム作成に向けて活用を図るなどされたい。	
			32) 指定規則に合致した科目と単位・時間を設定している	4.0	設定している		
			33) 定期的なカリキュラムの見直しがされている	3.2	年度末に、各領域の講義、臨地実習評価を実施している。評価の内容によっては、修正して次年度に活かせるようにしている。教員、各教室のパソコンは、随時更新している。教材・シュミレーターも点検、補充している。		
			34) テキストや教材は適切なものを選定している	3.0	毎年、翌年の教科書検討を会議の中で実施している。しかし、効率よく教科書を使用している講義であるかは、今後の課題である。		
			35) 授業の評価が適切にされている	2.6	学生からの授業評価は、講義担当の教員が実施している。しかし、全教科の授業評価は実施できていない。後、33)に準ずる		
			36) 実践的な看護教育を体系的(講義・演習・実習)に位置付けている	3.2	体系的に位置づけられている。実習施設との連携により、実践的な看護教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫を行っている。		
			37) 講師の資格要件を明示し、要件は満たしている	3.8	講師採用の際、履歴書、免許などで要件を満たしているか確認している。		
			38) 効果的に授業運営を図るため、適切に時間割を調整している	3.6	月に1回、翌月の時間割の調整を行っている。各学年の担任と再履修の学生担当が入り、教員の効果的な配置や講義にふさわしい教室選びをしている。		
39) シラバスが作成され学生に配布されている	4.0	毎年、作成し配布している。					

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果	学校関係者評価委員会の評価
Ⅲ 教育活動	3.4	8 カリキュラム・授業方法	3.5	40) 学生便覧は内容、構成が工夫して作成されている	3.8	教育理念、学則、規程の順で目次が作られている。 巻末に、諸手続きの様式と方法を載せてわかりやすく記載にしている。	
				41) 年度初めにカリキュラムガイダンスを行っている	4.0	入学前に、「春から看護学生になる皆さんへ」を送付し、学生になる心構えを準備できるようにしてから、4月に、該当年次の教育計画表を配布し、おおまかな学習内容を説明している。各科目ごと初講時にガイダンスをしている。カリキュラムに関連づけて、「充実した学生生活を過ごすために知ってほしいこと～日常生活の注意と防犯」を作成した。同じ内容で、翌年度に向けて「学生生活は危険がいっぱい・必ず知ってほしい15のこと」の小冊子を作製中である。	
				42) 授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善している	3.0	毎年、年度末の教育評価で話し合い翌年度改善できるよう教科書検討を会議の中で実施している。しかし、効率よく教科書を使用しての講義ができるかは、学生の学習能力の格差ゆえ難しさもあり今後の課題である。	
	9 教職員育成・教育推進活動	3.0	3.0	43) 人材育成目標に向け授業を行うことができる要因を備えた教員確保に努めている	3.4	殆どの教員は、専門領域での臨床実績があり、助産師やケアマネージャーなどの有資格者である。専門性の高い臨床の認定看護師も講義を担当している。 2名の教員が教員免許の有資格に向けて励んでいる。(2020年度取得済み)	専任教員の資格要件を有する教員の確保について、2020年度に向けて、資格取得が必要な2名の就業が決まったということであり、必要人員の確保に努めるとともに職場内研修の内容も充実が計られている。引き続き教員の知識を高めてレベルアップしてより良い看護教育ができるように、職場内研修も手厚く開催するように努めて頂きたい。
				44) 専任教員一人あたりの担当科目時間数は適切であり、授業準備のための時間がとれる体制を整えている	2.8	指定規則にある1教員の講義時間数は、1週で15時間内であることは守られている。しかし、臨地実習が多施設となり調整に多くの時間を必要としていることや、実習施設側から教員の学生指導に毎日来てほしいという要望もあり、帰校日は担任業務に追われ、授業準備に使う時間が限られている。校内の教育活動を踏まえると、現在専任教員は15名で法令的には確保されている現状であるが、実質的には、授業準備のための時間が確保できていないところが課題である	
				45) 学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っている	3.0	レポートや実習記録など学生が書いた記録物で指導助言する場面が多いが、学生の国語力の低下し、指導が困難な場面も多くなったことから6月22日に早稲田大学文学学術院文学部の福澤一吉講師を招き「看護職が身につけたいロジカルシンキング」を学内教員研修として実施した。本校が抱えている問題の解決に向けての職場内研修を数年に一度実施していきたい。	
				46) 教員の授業を相互に参観、講評できる制度がある	3.0	教員が希望する講義には参加できるようなシステムがあり、体験講義などは、事前に全教員の前で講義を行い、意見交換の場を設けている。新人教員の講義リハーサルにはほとんどの教員が参観し、意見交換をしている。	
	10 卒業生支援	2.5	2.5	47) 卒業生の就業先の情報交換などを行い、問題を明確化している	2.4	卒後1年目に「もうすぐ2年目ナース」の研修を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により開催を中止した。平成27年度より同窓会活動支援を実施している。	卒業後は関係が希薄になるが看護師の働く環境の向上を目指し、本校との繋がりを深めて、看護教育に興味を持つ卒業生の確保も想定されたい。キャリア形成支援で同窓会のホームページが活用されているので更に利活用の工夫をし、もっと進化した対応をしていただきたい。
				48) 卒業後のキャリア形成を把握、支援している	2.6	キャリア開発についての記載をした「がんばれ 新社会人」の冊子を作成し、キャリア開発に関する説明をした。実習施設に就職した学生は把握しているがその他の施設への就業者に対する状況の把握は行っていない。	

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果	学校関係者評価委員会の評価
Ⅲ 教育活動	3.4	11 臨地実習	3.8	49) 実習要項は看護学ごとに作成している	4.0	各領域の実習ごとに実習要項を作成し、学生や指導者に理解しやすい表現になるように見直しを行っている	実習時の倫理的配慮では、実習記録の盗難防止のために自転車のカバーのチェックなど、細かな点に気配りしている点及び実習時のインシデント、アクシデントに対する対応を学生を交えて振り返り指導に生かしていることは、評価できる。
				50) 実習目標が達成されるよう実習環境整備が整備されている	3.4	3年生の人数が80名体制になったことで、実習場所の確保が困難な状況となった。そのため、2020年度に向けてJCHO湯河原病院、訪問看護ステーション3ヶ所の新規実習施設開拓を行った。それと同時に実習指導教員の確保が必要となったため、非常勤も含め4名の実習指導教員を増員した。また、実習指導者講習会未受講の指導者が配置されている施設には、受講を推奨している。	
				51) 実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制がある	3.8	実習ごとに、教員と指導者の役割を明記した指導案を作成し、同じ目標に向かって指導ができるように実習で活用している。学生の様子をみながら毎年変更している。定期的に実習施設ごとに指導者会議を行い、評価している。	
				52) 実習時の患者への倫理的配慮を励行している	4.0	実習前の臨地実習オリエンテーションで、個人情報の取り扱いについて誓約書の記入をしてもらい注意喚起している。実習記録の紛失防止のため、自転車のカバーのチェックを行っている。	
				53) 実習時のインシデント、アクシデントの分析し、学生指導に生かしている	4.0	実習においてのインシデント、アクシデントは、学生とその都度タイムリーに振り返り学びにつなげている。年度末には、まとめて実習施設と共有し学生指導に生かしている。	
Ⅳ 学生支援	3.6	12 学生支援	3.5	54) 学生の安全管理(災害共済保険加入等)を行っている	4.0	医療・福祉系の学生教職員の総合補償制度Willに全学生が加入し、傷害・賠償・感染事故等のトラブルに対応する補償が得られ学生の安全が図られるようにしている。また、災害時等に学生の所在を確認したり、緊急連絡のできるインターネットのシステム「アンピック」を導入し、学生の安全確認と災害時に的確な指示連絡のできる体制を構築している。また、保護者の登録も促している。	保護者・保証人への情報提供は、定期的に行われているが、学生が在学中は学業不振や体調不良など様々な問題に直面するので、日ごろから本校の状況に理解を深めて頂くためには、学校の情報が届いていることが必要である。ホームページでの発信もあるが、不十分な点あるいは微妙な点もあるので工夫して取り組む必要がある。課外活動の取組環境は整備されているが活動は活発でないようである。看護学校の特性から難しい面もあり、学生にゆとりがあればできるが、できないのは、やむを得ないと思う。本業の勉強への支障のない範囲で、学生の自主性を尊重して工夫して取り組むことを期待したい。スクールカウンセラーは、2019年11月から配置されたとのことなので、この導入によって退学率の減少に繋がっていることもあり改善に努力していることが目に見えている。
				55) 保護者・保証人に、定期的に情報提供を行っている	3.4	年度末(3月)に学修記録を送付している。1年次では、入学時と11月に保護者説明会を開催している。3年次では7月に保護者説明会をおこなっている。その際、希望者に対して個別の面接を実施している。また、必要時は直接保護者に連絡を取って情報提供を行っている。	
				56) 課外活動に対する支援体制は整備している	2.8	学生会以外にクラブ・同好会等を設立できる事項を定め、学生便覧の「学生生活」の中に記載し、入学時オリエンテーションで説明しているが、現在学生の課外活動はされていない。	
				57) 学生の経済的側面に対する支援制度の周知を図っている	4.0	毎年日本学生支援機構の奨学金制度の説明会を開催するとともに、各病院による奨学金制度の案内冊子を作成配布している。また、年度初めに奨学金の希望調査を行っている。奨学金の案内冊子のほか専門実践教育給付金制度について当校のホームページに掲載して周知に努めている。	
				58) スクールカウンセラーの配置など、学生の健康管理や学生相談に関する体制は整備している	3.2	11月からスクールカウンセラーが配置された。相談者は多くないがスクールカウンセラーがいるという教員サイドの安心感が生まれ、担任だけでなく適宜相談内容により振り分けながらフォローしていく体制が整った。	



大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果	学校関係者評価委員会の評価	
IV 学 生 支 援	3.6	12 学 生 支 援	3.5	59) 進学・就職に関する支援体制は整備されている	3.8	情報提供のあった病院を中心にインターンシップ情報を提供している。進学に関する案内掲示コーナーを設け情報提供をしている。インターンシップ参加時の助言や事後の報告を受け、学生の希望にあった就職ができるように支援している。採用面接で不合格となることもあったが、100%病院へ就職できている。卒業時に「がんばれ新社会人」の冊子を作成し、社会人としての心得を伝えた。進学については、希望学生に対して入学試験対策の助言を行っており、助産師学校への進学希望者2名が推薦入試で合格した。		
				60) 学校の行事について、適切な事後反省を行っている	3.8	教職員会議で、評価を行い次年度に生かしている。また年度末にも評価と見直しを行っている。新型コロナウイルス感染症対策のため、卒業式を保護者不参加としたが、DVD撮影をして保護者に配布した。謝恩会も学生の判断により学生のためのパーティー形式となった。		
				61) 学生のための福利厚生施設・設備は整っている	3.0	学生ホールを設け、清涼飲料自動販売機、冷蔵庫、電子レンジ、流し台、テーブル・椅子等を設置し、昼食等飲食のできる設備を設けている。近隣のパン屋の出張販売があり、学生の昼食に役立っている。		
			13 健 康 管 理	3.9	62) 学生の健康管理を担う組織体制がある	4.0	学生の健康管理を担う組織体制としては、学則の健康管理規程に基づき、健康管理担当としての学校医、副校長、および保健担当教員が協力して任に当たっている。4月には、学校保健安全法に基づき、全学生を対象に定期健康診断を行っている。その結果を受け、学校医に報告し、「要精密検査」の学生には早期の受診を促している。その受診結果も報告を受け把握し、担任とも協力してその後の健康管理に役立っている。健康診断で特に異常がない学生も、「健康診断結果の見方」を説明し、自分自身の健康に関心を持ち、学生生活がスムーズにいくよう促している。秋季には学内において自分自身で、身長や体重、血圧、尿検査等の検査を行い、年間を通じての健康管理に役立っている。11月より週に1回、学内にカウンセリングルームを設け、メンタル面の課題を抱える学生にも対処している。	学生の健康管理に関しては、組織体制も整っており、インフルエンザ等感染予防対策、慢性疾患対策、健康管理の指導啓蒙などの確に行われているので、引き続き質を落とさぬように対応を願いたい。
	63) インフルエンザ等感染予防対策がされている	4.0	1年生には小児感染症の抗体価の検査を行い、基準に満たない学生にはワクチン接種の勧奨接種を行っている。その意義については、「保健体育」の講義にて1年生にも理解できるように伝え、基礎看護学実習前には全員接種が済むように、確認を行っている。インフルエンザは、秋季には学生への呼びかけを行い、全員が予防接種できるように促している。学内でのインフルエンザ罹患者は担任と共に把握し、クラス内での感染状況など把握している。普段からの免疫力を上げるような食生活や睡眠状況などにも、個別に指導をしている。他の感染症については、学校保健安全法に基づき、必要時出席停止などの措置を行っている。					
	64) 慢性疾患等のある学生に支援をしている	4.0	特に慢性疾患を持ちながら、学校生活を送っている学生には、定期的な受診行動はとれているかや、治療の推移、体調の変化なども、気遣い支援している。					

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果	学校関係者評価委員会の評価
IV 学生支援	3.6	13 健康管理	3.9	65) 健康管理に関する指導や啓蒙活動を実施している	3.6	学校への欠席や遅刻などにも注意し、体調管理に課題のある学生については生活指導を行っている。又特に臨地実習に参加する際は、実習現場に移動する前に検温や症状の報告など行い、体調管理に努めるよう促している。学内で5月にはメンタルケアを含んだ「5月病」への対応や、雨季の食中毒、冬季のノロウイルス感染症への注意喚起などのポスター掲示を行っている。禁煙については、入学前に送付している学生生活のパンフレットでの注意や、学校生活の中で気づいた際の指導を行っている。男子学生も増え、禁煙教育については今後も力を入れていきたい。 今年度はカウンセリングルームの新設もあり、メンタル面に課題のある学生には対応しているが、今後も連携を図り学生支援を続けていきたい。	
V 学生の受け入れ	3.8	14 学生募集活動	3.8	66) 高等学校等への情報提供などの取り組みを行っている	4.0	高校への訪問を指定校を中心に昨年度より1月早く、6月上旬から訪問開始した。神奈川県内33校、静岡県内21校、仙台市内2校を訪問した。北海道・東北の遠方の高校(14校)は、電話で情報提供を行った。 また、近隣高校から依頼された高校内で開催される進路説明会に5校に参加した。	学生募集で3倍以上の受験生を確保するのは、最近2年間の実績をみても、少子化の影響もある中で困難な面もあると考えられるが、受験生へのアピールを様々な方面に発信して受験生の数を増やし、競争によってレベルアップが図れるように取り組んでいきたい。学校説明会に行ってみようという県立高校の学生が増えているが、コロナ禍で学校説明会が中止になり、看護に関する情報を得にくくなっているため、情報提供の方法を幅広くすることも必要である。併せて、社会人に対しても受験の枠を広げて門戸を開いて学びやすい環境を整えることも必要であり、そのために専門実践教育訓練給付制度の対象校になっていることは評価できる。また、高等教育の就学支援新制度の機関承認を受けて授業料の減免制度を導入するなど、経済的に支援を必要とする学生を受け入れる体制の整備にも取り組み、学びの環境の向上に努めている。
				67) 学校説明会の内容(時期・方法等)は適切である	4.0	高校の夏休みを中心に3日間(5回)、9月末に1日のオープンキャンパスを開催した。その他、個別の対応日を5日間告知し、説明会を開いた。計382名(保護者含む573名)の参加者があった。総人数では2名増であった。保護者との参加者が年々増加している。参加者のアンケートからも在学生の様子が知りたい内容であるため、学生会と3年生を中心に学生のボランティアにも協力してもらい、本校を知ってもらおうプログラムにしており、好評を得ている。 また、3月には新高校2・3年生を対象とした説明会を企画し、近隣高校への告知やホームページへの掲載をしたが、新型コロナウイルス感染症により、開催を中止した。	
				68) 入学者選抜の時期、方針、方法は適切である	3.0	2019年度入試の実施回数は6回であった。2020年度入試は、AO入学試験での入学者の退学や成績不振から優秀な学生確保につながらず中止した。高等学校長の公募推薦による入試は、小論文を受験科目としていたが、学力を図る点から国語・数学・生物の学科目試験に変更した。さらに、AO入試の中止で受験できなくなる社会人等もいるとの観点から公募推薦の受験資格を現役生以外も可とし、名称を自己推薦入試に変更した。結果2020年度の入学試験回数は5回と1回減り、応募総数は202名(受験者数196名)で昨年度より受験者数26名減少した。(2019年度222名、2018年度250名)。公募推薦から自己推薦へと内容を変更したが、受験者数は前年度36名で、今年度40名であることから、試験形態を変更した影響はなかった。神奈川県下に学校が多数設置され、競争が激化しているため、学生確保および魅力ある学校づくりの対策が必要である。学生の質の確保から、定員の3倍以上の受験者を確保したい。	
				69) 学生の受け入れ方針を明文化している	4.0	本校の教育理念・目標を反映した学生募集のために、2020年度入試より必要な求める学生像を明文化した。	

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果	学校関係者評価委員会の評価	
V 学生の受け入れ	3.8	14 学生募集活動	3.8	70) 志願者状況、定員充足率を分析、評価している	4.0	志願者、合格者、入学者の推移と傾向について、毎年評価し、次年度の学生募集に役立てている。昨年度の評価により、AO入試を中止した。公募推薦入試を自己推薦とし、検定試験など資格をもち自分の頑張りアピールできる入試に変更した。小論文の入試内容から基礎的学力を図る内容へと変更した。一般受験では、I期で63名、II期で32名の受験者数であった。(前年I期51名、II期34名)そのうち、公立看護学校や看護大学への合格により、辞退者が出ている状況にある。		
				71) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されている	3.8	既修得単位認定の規程を設けている。また、専門実践教育訓練給付制度の認定校としての体制も整備している。		
		15 学生募集の広報	3.8	72) 募集要項・学校案内を作成し、志願者に情報提供をしている	4.0	学校案内は、定員増となる平成28年に作成した。予算と作成に必要なマンパワーの問題から毎年更新することは難しいため、変更しなくてもよい内容にしている。その代わりに、学生広報誌として、昨年の行事や学生の声などを年1回作成し、配布している。ホームページは、4月に内容を見直し、情報の修正を行っている。		学生募集の広報は、募集要項や学校案内を作成しており、ホームページでも広報するとともに進学情報サイトへの参加などWebを活用したりして的確に行われている。
				73) 志願者が関心を持つ積極的な広報活動の実施をしているか	3.6	進学情報サイトのベスト進学ネットを活用し、広報活動を行っている。関東甲信越地区を拠点とした学校情報の掲載を行うサイトのため、テレビCMなどで知名度がある全国区をターゲットにした進学情報サイト(マイナビ進学)との契約し、本校の情報がポータルサイトで閲覧可能となった。マイナビ進学サイトからの募集要項の請求率は高く4割を超えている。また、地域における本校の周知についてはホームページや地域コミュニティ紙を引き続き活用する。		
VI 国際交流・地域社会	2.6	16 国際交流	2.3	74) 国際的な視野を広げるための授業科目を設定している	3.0	英語Ⅰ、英語Ⅱ、文化人類学、看護の統合Ⅰ(国際看護)を科目立てしている。	外国人との接触機会は年々増えていることからカリキュラムの科目立てもあるが、英語の習熟に向けた配慮をするとともに、交流の検討もされたい。 地域社会で看護学校の理解を広めることは必要であるのでその活動を期待したい。学生のボランティア活動は、教育活動の中で重要なことであるが、それが単位取得に結び付くようなことになればとの期待もある。地域社会との関わりを持つことができる可能性もあるので今後の取組に期待したい。	
				75) 海外との交流が行えるシステムづくりをしている	1.6	海外との交流が行えるシステムづくりは行っていない。国外の事情等への関心を高める取り組みが必要と考える。		
		17 地域社会	3.2	76) 学校の教育資源や施設を活用して社会貢献・地域貢献に努めている	3.0	もうすぐ2年目ナースと題し、地域の新人看護師対象の研修を開催している。(2019年度新型コロナウイルス感染症のため中止)卒業生および小田原医師会内の医療機関に従事する職員の図書室利用を可とし、その旨をホームページに載せている。小田原市在住の助産師会に教材の貸し出しを行っている。		
				77) 学生のボランティア活動の奨励、支援をしている	2.6	老人福祉施設等からのボランティア依頼の情報を学生に提供している。地域小児科診療所のボランティアアルバイトの調整も行っている。		
		78) 教員は対外的に講師としての役割を果たし、活動している	3.0	実習施設より依頼された「現代若者の理解」の講演を実施し、教育と現場の連携を行っている。				

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果	学校関係者評価委員会の評価
VII 研究・研修	3.2	18 研究・研修	3.2	79) 教員が専門領域の臨地実習、研修に参加する体制を整えている	3.8	教員の研修参加は、100%希望の研修に参加できている。研修報告書を提出し、年2回学んだ成果を共有できる場を設けている。 新規の臨床施設において情報収集と交流を兼ねた研修のみ実施している。臨床研修に参加するため、担当する科目に関するセミナー等へは、積極的に参加している。	看護教育の水準の向上と維持を図るためには、看護教員の資質のレベルアップが重要な要素であり、やるべきことであるので、自身の研修研究で手の及ばないことや、途絶えている研究の実施に取り組み、教育のレベルアップを図ることが大切である。キャリアアップを目指して大学院への進学などのできる環境を整えるとともに推奨するようにされたい。研究研修活動への取組を強化され研修に年1回以上参加できる環境を整えたことは評価したい。
				80) 研究活動を教員相互で支援しあう環境がある	2.4	2007年を最後に研究発表していない。本校での教育活動を報告する体制を整える必要がある。 在職のままキャリアアップを目指して大学院等へ進学する教員2名(2019年度)	
				81) 教員は年1回以上、自主的に研修に参加している	3.4	2019年1回の研修に参加できた。(平均1.9回/16名)校内教員研修「クリティカルな思考ができる学生の育成」を目的に論理的思考に関する学習会を6月22日実施した。講師：早稲田大学文学部教授・福澤一吉先生	
まとめ							評価項目81項目全体の中で、4段階評価で改善の成果が出て評価の低い項目が半減していることは改善の成果であり、その努力には敬服している。改善を図るのが難しい点もあると思うが、プラス思考で考えて、自己点検によってより進歩させていくことができたと理解している。評価の上がっている項目は実習の現場で見ても改善されており、実習の倫理配慮など、かなりきちっと指導されて改善している。教員たちが頑張っていることが評価に表れている。教員は多忙であって、手の回らないところもあると考えられるが、学校は学校で努力しており、管内の西湘地域にある小田原市立病院をはじめとする医療機関等の看護師の確保に貢献していることが、地域の医療機関等によく伝わってきている。小田原医師会管内への看護師の供給に力を発揮しているので、引き続き努力をいただきたい。